

ミクロ経済学

講義ガイダンス

山田知明

明治大学

2023 年度講義ガイダンス

経済学事始め

- 経済学のイメージと実際
 - お金を儲けるための手段/学問?⇒No!
 - 難しい言葉を覚えなないといけない?⇒Yes&No
 - 新聞の経済記事を読んでみよう!
- 希少資源の配分に関する学問 by Sir Lionel Robbins
 - すべての人間の経済的欲求を完全に満たす事は不可能
 - 「誰が」「どのような手段で」「どの程度」の富や所得 (経済資源) を獲得するのか?
 - その配分が社会にどのような影響を及ぼすのか?
- 人々や企業の選択と市場 (しじょう) の役割を理解したい

It will be my most cherished ambition, my highest endeavour, to do what with my poor ability and my limited strength I may, to increase the number of those whom Cambridge, the great mother of strong men, sends out into the world with cool heads but warm hearts, willing to give some at least of their best powers to grappling with the social suffering around them; resolved not to rest content till they have done what in them lies to discover how far it is possible to open up to all the material means of a refined and noble life.

by Alfred Marshall, quoted in Keynes, J.M. (1924), "Alfred Marshall, 1842-1924," *The Economic Journal*, 34(135), pp. 311-372.

「経済学」の定義：その 1

個人、企業、政府、さらに社会にあるその他のさまざまな組織が、どのように選択し、そうした選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問

スティグリッツ/ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学 第4版』東洋経済新報社、p.6.

「経済学」の定義：その 2

道徳は世界がどうであってほしいかを表し、
経済学は世界が実際にはどうであるかを表す

スティーブン・レヴィット&スティーブン・ダブナー
『ヤバすぎる経済学』東洋経済、p.329.

講義に関して

- テキスト

- ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト
『ALL ミクロ経済学』 東洋経済新報社

- 参考文献

- ジョセフ・スティグリッツ/カール・ウォルシュ
『スティグリッツ入門経済学 第4版』 東洋経済新報社
- スティーヴン・レヴィット/オースタン・グールズビー/チャド・サイヴァーソン
『レヴィット ミクロ経済学 基礎編・発展編』
東洋経済新報社
- 神取道宏『ミクロ経済学の力』 日本評論社

講義に関して (続き)

- 講義関連情報

- Oh-o!Meiji
- <https://tomoakiyamada.github.io/>
- Google “Tomoaki Yamada”
- 明治大学商学部 → 専任教員一覧

- 講義スタイル

- 講義スライド (pdf)+板書
- 講義スライドは各自ダウンロードしてください
 - アップデートしているので講義日直前になる場合があります
 - 講義後にアップデート (微修正) する可能性もあります

講義に関して (続き)

- 成績評価
 - 期末試験 (70%) + レポート (30%) によって評価@シラバス
 - 状況に応じて追加で課題を出すかも
 - COVID-19 の感染状況次第で変更の可能性あり
- 大学での講義の受け方
 - 講義を聞きながらノートテイク
 - 予備校みたいに整理して黒板 (ホワイトボード) にキレイにまとめて書いてくれる人は (ほとんど) いません!
- 「マクロ経済学」とワンセットでの受講が望ましい
 - マクロ経済学の理解にはミクロ経済学の知識が必要

経済学とは?

- 経済学 (Economics) とは?
 - 意思決定 (Decision Making) あるいは選択 (Choices) の科学
- 経済学はどのような問いに答える (答えようとする) のか?
 - ≈ この授業で何を学ぶ事が出来るのか
- 2つの経済学的アプローチ
 1. 事実解明的経済学 (Positive Economics)
 - 人々が実際にしていることを記述する
 2. 規範的経済学 (Normative Economics)
 - 人々がすべきことを提言する

経済学的な問い

- 事実解明的経済学の例
 1. 定額給付金ほどの程度の景気底支え効果があるのか?
 2. 大学を卒業したばかりの新卒社員の平均月給はいくらか?
 3. 1000 万円の広告を打つといくら位売上が上がるか?
 4. 幼児教育を行うと大人になったときにどの位収入が増えるのか?
- 規範的経済学の例
 1. 消費税は貧困層にとって望ましい税だろうか?
 2. 初任給が高い企業に就職するべきだろうか?
 3. 積極的に幼児教育を行うべきだろうか?
- 前者も後者も分析ツールが必要になる
 - 経済理論 + 統計学 (計量経済学)
- 後者には価値判断が伴う

ミクロ経済学とマクロ経済学

- 経済学は分析・研究対象によって 2 つに分類される
- **ミクロ経済学** (≈ 経済学 A)
 - 個人、家計、企業といったミクロ的な選択が分析対象
 - 各経済主体が市場を通じて経済活動を行った結果として、価格や資源配分、相手の意思決定に何が起こるのか
 - 例：賃金決定メカニズム、最適な税の仕組み、寡占市場と戦略的な企業行動 etc.
- **マクロ経済学** (≈ 経済学 B)
 - 一国全体の短期的、長期的な変動が分析対象
 - 集計された経済活動を見る
 - 例：景気対策、なぜ貧しい国と豊かな国が存在するのか、住宅価格の暴落と銀行破綻 etc.

経済学とビジネス

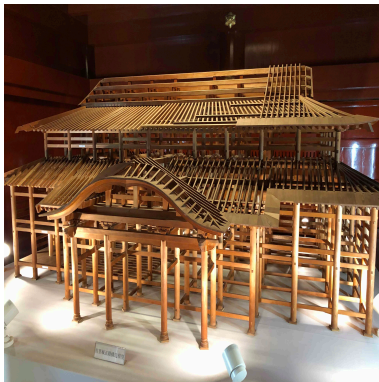
問い：広告を打つと売上は伸びる？

- 相関関係 (Correlation)
 - 経済変数間の関係
 - 例 1：失業率が高い時には、インフレ率は低い
 - 例 2：親の収入が高いと、子供の学歴が高い
- 因果関係 (Causation)
 - 親の収入が高い \Rightarrow 子供の学歴が高い
 - 親の収入が高い \nRightarrow 子供の学歴が高い
- 混同するとおかしな事になる!
 - 警察官を減らせば犯罪者は減少する!?
- ばかげた因果関係と相関関係
 - Youtube 動画と日本語解説

科学としての経済学

- 誰かにだまされないためには誰かが発見した知識を蓄える (これも重要だけど) よりも自力で考えることが出来るようになる必要がある
- 経済理論
 - 仮定 (あるいは仮説) とその仮定から導き出された結論の集まり
- 通常、「モデル」と呼ばれる理論的フレームワークを用いる
 - 車や飛行機、携帯電話なども始めは模型やコンピュータのシミュレーションを用いる
 - 例：経済成長率が1%低下したら失業率はどれ位、増加するか? ← コンピュータで予測 (モデル)
- 経済学を学ぶ上で大切なこと
 - 暗記は (ほとんど) 必要ない
 - メカニズム (なぜ、そうなるのか?) を理解する事が大事!
 - 例えば、頭の中で「需要・供給曲線」を描ける

モデルのイメージ



キーワード

希少資源、事実解明的経済学、規範的経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、因果関係、相関関係、経済モデル

エクササイズ

1. あなたによつての希少資源とはなにか?それは経済学が想定している希少資源と一致するだろうか、それとも異なるだろうか
2. 規範的経済学の問いを考えてみよう
3. 事実解明的経済学の問いを考えてみよう
4. マクロ経済学的な問い、ミクロ経済学的な問いを考えてみよう
5. 大学を卒業したばかりの新卒社員の平均月給を調べてみよう